

## 第 2 2 回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成 26 年 4 月 23 日（水） 15：00－17：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

山本内閣府特命担当大臣(宇宙政策)、亀岡内閣府大臣政務官、西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、深井宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、亀岡政務官から以下のような挨拶があった。

亀岡政務官：

- ・有人宇宙活動は注目を集める分野である。
- ・国際宇宙ステーション（ISS）については限られた資源で最大限の成果を上げるよう取り組んでいく必要がある。
- ・積極的にご議論いただき様々な選択肢をご提案いただきたい。

また、山本大臣から以下のような挨拶があった。

山本大臣：

- ・有人宇宙活動や宇宙探査については、宇宙基本計画を踏まえ、国としてしっかり取り組む必要がある。
- ・宇宙産業を活性化させていくには新規参入を促進していく必要がある。
- ・宇宙政策委員会における議論を重視している。

(1) 国際宇宙ステーション（ISS）計画並びに国際宇宙探査について

国際宇宙ステーション（ISS）関連及び国際宇宙探査フォーラム（ISEF）関連の検討課題について、資料 1 に基づいて事務局より説明を行った。また、国際宇宙ステーション（ISS）計画の概要、同計画の実績と成果、国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会の審議状況について、資料 2、資料 3、資料 4、資料 5 に基づいて文科省及び JAXA から説明を行った。主な意見は以下のとおり。

○ISS の経費は、年々削減されてきており、評価できる。より一層効果的な運用を期待する。今後は、新しい取組等ポジティブな道も模索すべき。

○ISS を用いた商業活動が活発になるような取り組みを行っていくべき。

○今後の国際宇宙探査に向けて、基本的なスタンスを明確にすることは重要である。我が国が有利な立ち位置になるよう慎重に状況を見極めていくべき。

○文部科学省における検討と宇宙政策委員会との連携を密にするべき。

(2) 宇宙産業部会からの報告

宇宙産業部会の審議状況について、資料6、資料7に基づいて松本委員から報告を行った。主な意見は以下の通り。

○宇宙の産業化に向けては、しっかりとした体制で、長期的な計画を検討していく必要がある。

○宇宙産業や利用の拡大には、宇宙予算全体を増やしていく必要がある。新しく増えた取り組みが既存の取り組みを圧迫していくことは避けるべき。

以上